

令和 6 年度

文部科学省

国際原子力人材育成イニシアティブ事業

未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム[ANEC]

機関横断的な人材育成事業

「機関連携強化による未来社会に向けた新

たな原子力教育拠点の構築」

ー原子力イノベーション養成プログラムー

成果報告書

(令和 6 年度実施分)

令和 7 年 3 月

実施機関 国立大学法人 東京科学大学

## 目 次

1. 事業の概要 .....	1
1.1. 背景 .....	1
1.2. 目的 .....	1
2. 事業計画 .....	1
2.1. 全体計画 .....	1
2.1.1. 原子力イノベーション養成キャンプ .....	1
2.1.2. 原子力イノベーション留学 .....	2
2.1.3. 原子力オープンキャンパス .....	2
2.2. 令和6年度の計画および業務の実施方法 .....	2
2.2.1. 原子力イノベーション養成キャンプ .....	2
2.2.2. 原子力イノベーション留学 .....	3
2.2.2.1. 当初計画 .....	3
2.2.2.2. 計画の変更 .....	3
2.2.3. 原子力オープンキャンパス .....	3
2.3. 体制 .....	4
3. 令和6年度の成果 .....	5
3.1. 原子力イノベーション養成キャンプ .....	5
3.2. 原子力イノベーション留学 .....	16
3.2.1. 米国大学原子力オープンキャンパス .....	16
3.3. 原子力オープンキャンパス .....	24
3.4. その他 .....	32
4. 結言 .....	34
付録 .....	35
1. 令和6年度原子力イノベーション留学 追加募集要項 .....	35
2. 米国大学原子力オープンキャンパス 2025 募集要項 .....	38



## 1. 事業の概要

### 1.1. 背景

原子力開発をとりまく環境は近年大きく変化した。エネルギー供給は多様化し、新エネルギーの導入が積極的に行われ、またエネルギーの供給と需要において市場原理の導入が図られている。また国連および日本政府が推進している SDGs においても、「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「9. 産業と技術革新の基礎を作ろう」、「13. 気候変動に具体的な対策を」が挙げられており、原子力技術が果たしうる役割は多い。また日本政府が掲げる Society 5.0 では、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）の実現に向けた原子力分野での取り組みが求められている。具体的には再生可能エネルギーなどの新しいエネルギー源と IT 技術を融合させたシステムによる脱炭素化、地域発展に寄与する地域社会の主体によるエネルギー供給システムの確立といった課題に取り組むことのできる人材が必要である。また海外では、SMR 開発を推進するベンチャー企業が現れ、多様な炉型の原子炉の開発が進められており、先端技術に通じかつアントレプレナーシップに優れた人材を育成していくことも必要である。

### 1.2. 目的

以上の背景を踏まえ、原子力工学の基礎に立脚し、エネルギーシステムと様々な工学分野の先端技術に通じ、原子力分野で新たな企業活動を立ち上げる意欲と能力を持ち、国際的センスとマネジメントに優れた将来の原子力エネルギー分野でのイノベーションを担うことのできる技術者・研究者の育成を本人材育成活動の目的とした。活動を通じて将来の原子力エネルギー分野でのイノベーションを担うことのできる技術者・研究者の育成を目指すこととし、具体的には原子力工学の基礎、エネルギーシステムと様々な先端技術の知識、新たな企業活動を立ち上げる意欲と能力、国際的センス、マネジメント能力を有する人材の育成を行う。

## 2. 事業計画

### 2.1. 全体計画

本事業は、原子力イノベーター養成プログラム(NICP)として実施し、未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム(ANEC)に参画しつつ、以下の3つの活動を行う。

#### 2.1.1. 原子力イノベーター養成キャンプ

米国カリフォルニア大学バークレー校(UCB)で2016年に始まったニュークリアイノベーションブートキャンプ(NIB)は、主に大学院学生を対象とし原子力分野でイノベーションをもたらす起業家精神を涵養する合宿スタイルのセミナーである。東京科学大学は早くからその意義を認識し、2018年にはキャンプの提唱者であるUCBのProf. Rachel Slaybaughを訪問しセミナーの内容や運営方法を調査するなどして日本での同様なセミナーの開催の可能性を検討してきた。本活動では、日本版キャンプとして原子力イノベーター養成キャンプ(NICC)を開催する。NICCでは、イノベティブな活動と起業の精神を有し、

国際センスのある人材育成の輩出を目指す。NICC で扱うテーマは、次世代炉、廃棄物低減、SMR 等の新しい原子力技術に関するものにとどまらず、アントレプレナーシップや社会学的側面にも焦点をあて企画・立案を行う。また NIB を日本に誘致・開催することでそのノウハウを蓄積し NICC の開催に生かしていく。対象は国内の原子力分野の大学院学生および若手技術者・研究者とし、多くの学生・技術者・研究者が参加できるようにする。

### 2.1.2. 原子力イノベーション留学

東京科学大学とマサチューセッツ工科大学 (MIT) は、日本の原子力産業の将来を考え、多くの優秀な学生が原子力分野に進むモチベーションを持たせる方策について意見交換を行ってきた。その結果として、日本の大学院学生を、原子力研究・教育を行っているトップレベルの米国大学へ数か月程度留学させ、海外における原子力研究・教育に触れる機会を提示するのが有効ではないかとの結論になった。本活動では、大学院博士課程の学生を、4 か月程度米国の原子力分野においてトップレベルの大学へ研究目的で留学させる。派遣先は MIT をはじめ、カリフォルニア大学バークレー校、ミシガン大学、ウィスコンシン大学マディソン校、ノースカロライナ州立大学、テキサス A&M 大学の大学院原子力系専攻とする。研究テーマは、将来の原子力分野にイノベーションを持たすことが期待されるものであるものとし、事前の選考により受入大学とのマッチングにより派遣学生・派遣先を決定する。また留学先での研究テーマは将来の国際共同研究への発展性を重視し、将来的に国際共同研究により学生派遣も継続できることを目指す。対象は国内の原子力分野大学院の博士課程の学生とし、多くの学生に留学の機会が与えられるようにする。

### 2.1.3. 原子力オープンキャンパス

高等学校生・高等専門学校生に原子力分野の教育・研究を行っている大学の学科・専攻及び原子力分野の仕事に関心を持ってもらうため原子力オープンキャンパスを開催する。

## 2.2. 令和 6 年度の計画および業務の実施方法

令和 6 年度は原子力イノベーター養成プログラム活動として原子力教育コンソーシアムに参画し、国際グループ会議の取りまとめを行うとともに以下の活動を行う。

### 2.2.1. 原子力イノベーター養成キャンプ

原子力イノベーター養成キャンプ (NICC) を開催する。具体的には、令和 6 年 7~8 月を目途に NICC を 1 週間程度の日程で開催することとし、国内大学および米国大学の学生等によるグループワーク等を行うほか、福島第一原子力発電所等の原子力関連施設でのフィールドワーク等を実施する。また、米国大学等と NICC 実施のための意見交換等を行う。なお、COVID-19 感染拡大等のため NICC の開催が困難となった場合は、オンライン等による代替のセミナー等を実施する。

## 2.2.2. 原子カインノベーション留学

### 2.2.2.1. 当初計画

原子カインノベーション留学（SANI）を実施する。具体的には、主に大学院博士課程学生を対象とした米国大学への研究留学派遣を行う。派遣期間は4か月程度とする。派遣先は、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学バークレー校、テキサス A&M大学、ミシガン大学、ウィスコンシン大学マディソン校、ノースカロライナ州立大学等の中から、受け入れ先教員と学生のマッチングが成立した大学とする。派遣に当たり、派遣学生には派遣前の研究計画書、派遣後の報告書の提出を義務づける。また、米国大学側と SANI 実施のための調整を行う。なお、COVID-19 感染拡大等のため派遣が困難となった場合は、オンライン等による代替のセミナー等を実施する。

### 2.2.2.2. 計画の変更

令和6年度実施予定であった原子カインノベーション留学（SANI）については令和6年5月まで募集を行うとともに個別に各大学教員と連絡をとり応募を勧めてもらうなど応募の勧誘に積極的に努めたが、応募がなかった。原因としては、原子力分野の博士後期課程の学生の減少、海外での研究留学の具体的なイメージがないため研究留学へのモチベーションが低いことなどがあげられる。このため修士課程学生の博士後期課程進学と研究留学のモチベーションを高めることが急務の課題であり、令和6年度は博士後期課程学生の研究留学派遣に代わり、原子力分野の研究・教育を行っている米国大学の複数の研究室を訪問し研究内容の説明を受け、研究施設の見学、研究者との質疑等を行う事業を実施し、原子力分野での海外大学での研究活動を実際に知ることによって大学院学生の視野を広げるとともに、海外大学での研究留学のモチベーションの高い学生の育成を行うことを目的として米国大学原子力オープンキャンパスを実施することとした。具体的には、大学院博士後期課程へ進学予定あるいは進学に興味を持つ修士課程学生の研究留学のモチベーションを高めるために、原子力研究を行っている複数の米国大学の研究室を訪問し研究内容の説明を受け、研究施設の見学、研究者との質疑等を行う。派遣先は、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学バークレー校、テキサス A&M 大学、ミシガン大学、ウィスコンシン大学マディソン校、ノースカロライナ州立大学等の中から受け入れ調整ができた大学とする。派遣に当たり、派遣学生にはこれまでの SANI 派遣学生との意見交換会と事前オリエンテーションへの参加、参加後のレポート提出を義務付ける。また、米国大学側と SANI 実施のための調整を行う。なお、COVID-19 感染拡大等のため派遣が困難となった場合は、オンライン等による代替のセミナー等を実施する。

### 2.2.3. 原子力オープンキャンパス

原子力オープンキャンパスを7月目途に1日間東京科学大学で開催する。原子力オープンキャンパスでは、高等学校生徒等を対象とした講演会、国内大学、原子力研究機関、原子力関連企業等を紹介するポスターセッション、放射線に関する実習等を行う。なお、やむを得ない事情が発生した場合は別会場で開催する。また COVID-19 感染拡大等のため対面での開催が困難となった場合は、オンライン等による代替のセミナー等を実施する。

### 2.3. 体制

実施体制を図 2.3-1 に示す。本事業は東京科学大学取りまとめのもと運営会議が活動の方針の企画・立案を行い、原子力イノベーター養成キャンプ WG が原子力イノベーター養成キャンプ(NICC)の実施を、原子力イノベーション留学 WG が原子力イノベーション留学(SANI)の実施を行う。NICC、SANI の活動は海外協力大学・機関の協力を得ながら実施する。

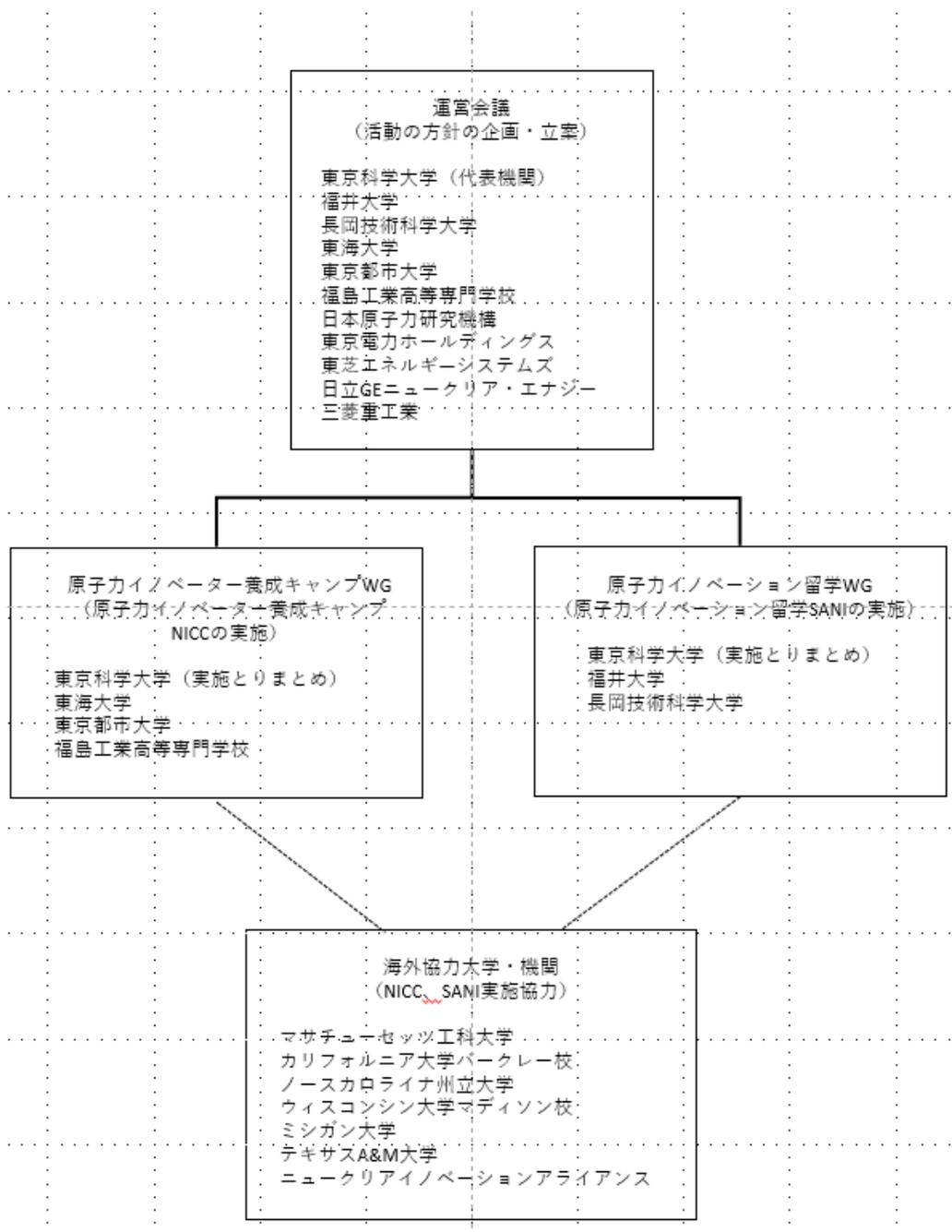


図 2.3-1 NIPP 実施体制

なお、代表機関（東京科学大学）事務局の担当者は以下のとおりである。

原子カインノベーター養成プログラム代表	教授	小原 徹
原子カインノベーター養成プログラム担当教員	准教授	片渕竜也
原子カインノベーター養成プログラム事務局		津田章子

### 3. 令和6年度の成果

#### 3.1. 原子カインノベーター養成キャンプ

「原子カインノベーター養成プログラム」(Nuclear Innovator Cultivation Program: NICIP) は、2024年7月30日から8月6日にかけて「原子カインノベーター養成キャンプ」(Nuclear Innovator Cultivation Camp: NICC2024) を東京科学大学大岡山キャンパスにて実施した。

NICC2024 は、NICIP 事業に協力する米国6大学（マサチューセッツ工科大学、ミシガン大学、ノースカロライナ州立大学、テキサス A&M 大学、カリフォルニア大学バークレー校、ウィスコンシン大学マディソン校）から参加する大学院生とのグループワークや福島第一原子力発電所見学などを通じて、国際的に活躍できる原子力のイノベーションを担う人材を育成することを目的としている。

NICC2024 には、国内の原子力系大学院に所属する大学院生6名、国内の原子力系企業に所属する若手研究者1名、米国から招待された大学院生6名の計13名が参加した。

プログラム初日の7月30日には、上坂充・原子力委員長が、オープニングキーノートとして「日本の原子力開発の現状と今後」と題して講演を行った。



講演を行う上坂原子力委員長（7月30日）



会場の様子（7月30日）



上坂原子力委員長との集合写真（7月30日）

参加者は午後からは5つのグループに分かれ、「私たちは何を開発してきたか」というテーマで、これまでに建設されている原子炉の開発の歴史を調べ、その結果を発表した。



グループワーク（7月30日）



グループワーク（7月30日）



グループワーク発表 (7月30日)



グループワーク発表 (7月30日)

7月31日には、技術研究組合国際廃炉研究開発機構（IRID）奥住直明氏が「福島第一原子力発電所廃炉 研究開発の現状と課題」と題した講演を行った。その後、参加者は東京科学大学ゼロカーボンエネルギー研究所の2つの研究施設を見学した。午後から再びグループに分かれて「社会から求められる原子力の条件」というテーマで議論を行い、その結果を発表した。



講演を行う奥住氏 (7月31日)



奥住氏の講演を聞く参加者 (7月31日)

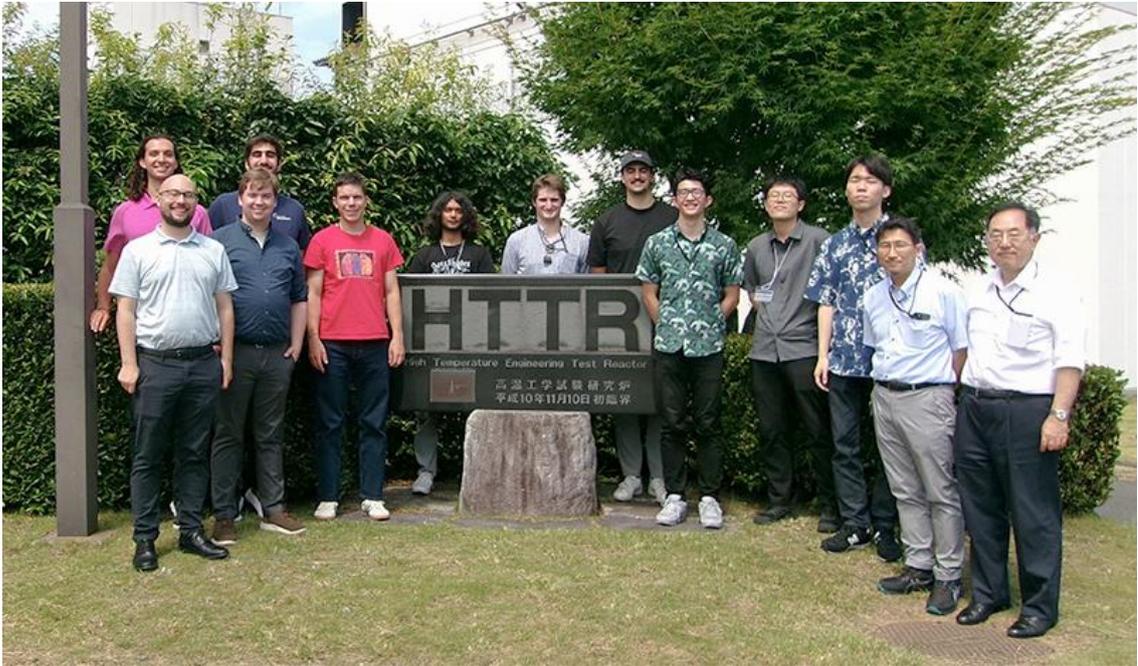


ゼロカーボンエネルギー研究所・ベレトロン加速器の見学 (7月31日)



ゼロカーボンエネルギー研究所・ニュークリアセラミックス実験室の見学 (7月31日)

8月1日および2日には視察旅行を実施した。1日、参加者は日本原子力研究開発機構(JAEA)大洗研究所を訪問し、高温工学試験研究炉(HTR)および水素製造試験装置を見学した。翌2日は、東京電力福島第一原子力発電所(1F)を訪問した。参加者は、廃炉事業とその進捗状況について説明を受けた後、専用バスおよび徒歩で原子力発電所構内を見学した。



JAEA 大洗研究所にて (8月1日)



東京電力による概要説明 (8月2日)

福島第一原子力発電所1号機前にて (8月2日)



福島第一原子力発電所 2~4 号機前にて (8月2日)



ALPS 処理水放出口を見学 (8月2日)



ALPS 処理水サンプルとともに (8月2日)



東京電力廃炉資料館にて (8月2日)

翌週の8月5日、Advanced Float 代表取締役・姉川尚史氏が「安全性を向上させる浮体式原子力発電所」と題した講演を行った。その後、参加者たちは「私たちはこれから何を開発すべきか」をテーマに、原子炉の用途、具体的な炉系、コンセプト、開発ロードマップ、予算、経済性および福島事故を踏まえた安全性などを評価し、新型原子炉開発プロジェクトを提案するグループワークにとりかかった。



講演を行う姉川氏 (8月5日)



質疑応答に応じる姉川氏 (8月5日)



グループワーク (8月5日)



グループワーク (8月5日)

最終日の8月6日には、小原徹・NICP代表が「ブリードバーン高速炉の未来」と題するクロージングキーノート講演を行った。その後、各グループはそれぞれ提案する新型原子炉開発プロジェクトについて発表した。最後に修了式で、小原代表より各参加者に修了証が手渡され、すべての日程を終了した。



グループワーク発表 (8月6日)



グループワーク発表 (8月6日)



グループワーク発表 (8月6日)



グループワーク発表 (8月6日)



講評を行う小原NICP代表 (8月6日)



講評を行う片渕准教授 (8月6日)



修了式 (8月6日)



修了式後の懇親会にて (8月6日)

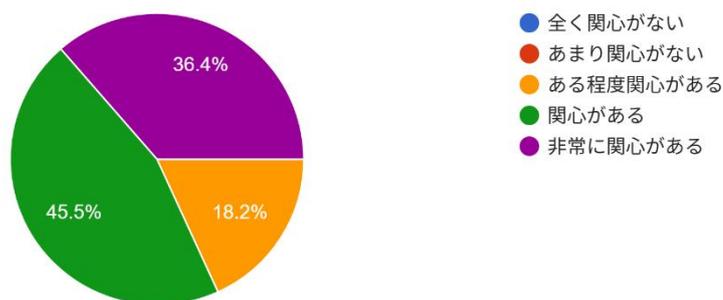
◆参加前後アンケート結果

参加前後のアンケート結果からグループワークで設定した各テーマへの関心が高まったことが確認できた。またすべての回答が参加が有意義であったという旨の回答となっており、本活動の有効性が確認された。

<参加前>

1. 原子炉開発の歴史に関心はありますか？

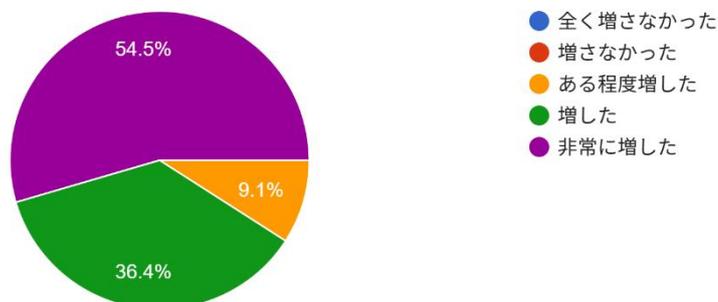
11件の回答



<参加後>

1. NICC2024への参加によって、原子炉開発の歴史への関心は増しましたか？

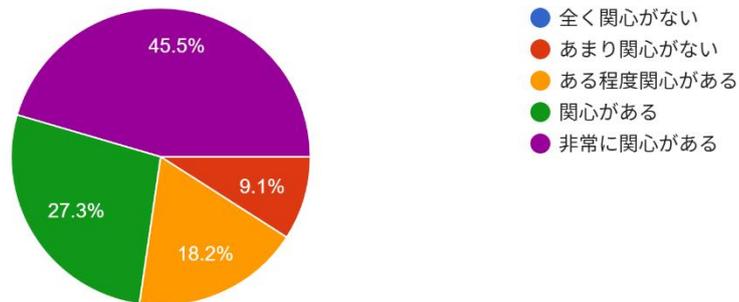
11件の回答



<参加前>

2. 社会から求められてる原子力の条件に関心がありますか？

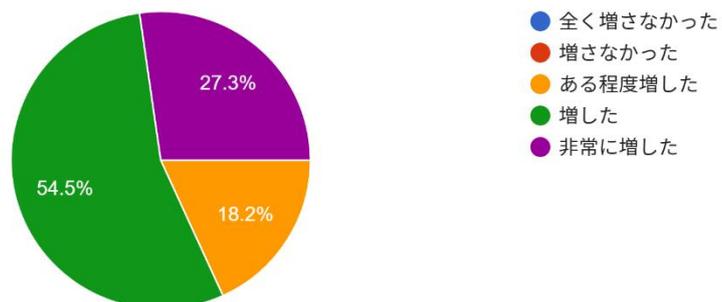
11件の回答



<参加後>

2. NICC2024への参加によって、社会から求められてる原子力の条件への関心は増しましたか？

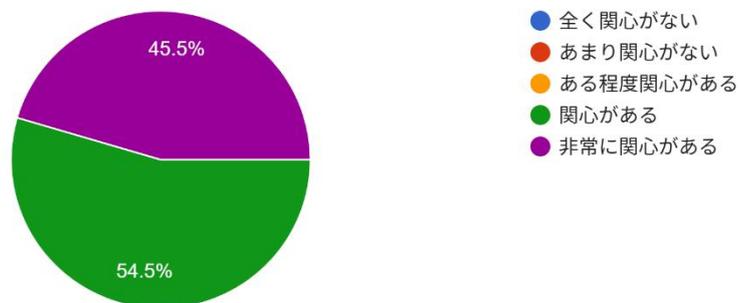
11件の回答



<参加前>

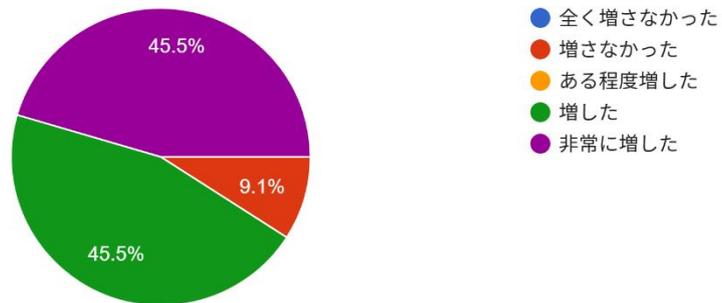
3. 私たちが将来開発すべき原子力システムに関心はありますか？

11件の回答



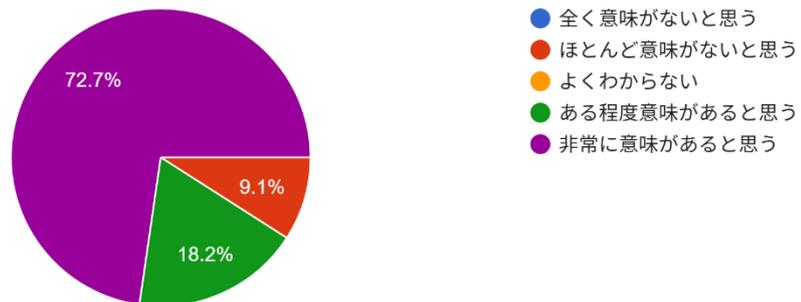
<参加後>

3. NICC2024への参加によって、私たちが将来開発すべき原子力システムへの関心が増しましたか？  
11件の回答



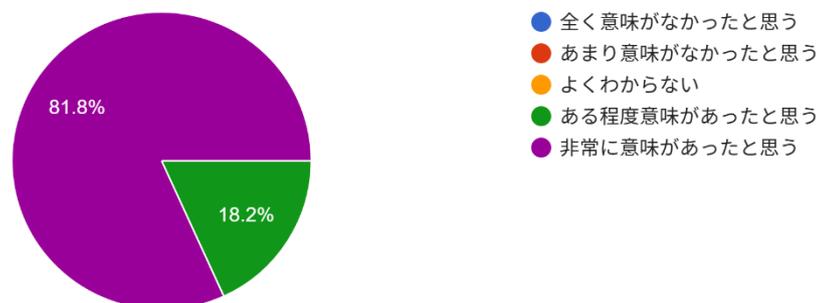
<参加前>

4. 他の大学や国の学生または若手研究者と議論を行うことは意味があると考えますか？  
11件の回答



<参加後>

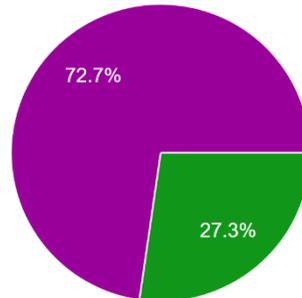
4. 他の大学や国の学生または若手研究者と議論を行うことは意味があったと思いますか？  
11件の回答



<参加前>

5. NICC2024への参加により得られるものがあると思いますか?

11件の回答

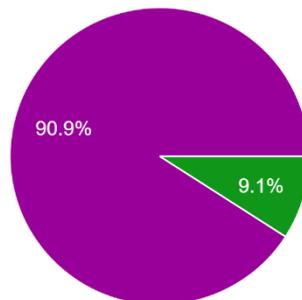


- ほとんど得られるものはないと思う
- あまり得られるものはないと思う
- よくわからない
- ある程度得られるものがあると思う
- 多くのものを得られると思う

<参加後>

5. NICC2024への参加によって、得られるものがありましたか?

11件の回答



- 何も得られるものがなかったと思う
- あまり得られものはなかったと思う
- よくわからない
- ある程度得られるものがあったと思う
- 多くのものを得られたと思う

◆参加者の声

- ・ 東京は猛暑でしたが、NICC は素晴らしい経験でした。参加者のほとんどがハイレベルの大学院生であったことを考えると、それぞれの研究についてのプレゼンテーションを聞くことができればよかったと思います。グループワークや学生のプレゼンテーションは、あまり専門的でなかったり、学生にテーマについて深く考えさせなかったりしたため、特に興味深いものではありませんでした。将来的には、グループごとに異なるテーマで検討した共通のプロジェクトを立ち上げることが有益かもしれません。全体としては、このプログラムは、米国外の原子力産業についての考え方を広げる上で素晴らしい経験であり、必ずまた参加したいと思います。
- ・ 原子力関係企業の社員ではない学生たちとディスカッションし、彼らの新鮮な意見を知ることができたことは、とても良かったです。
- ・ 素晴らしかった。
- ・ 原子力についてアメリカ中心ではない視点を経験し、日本人と交流する機会を得る

ことができたことは大変よかったです。なぜなら、日本人は、核に関し原子力発電および戦争を通じて特異な経験を持つからです。様々なレベルや国籍の学生や専門家、そして東工大教員の方々と交流できたことに感謝しています。

- ・ 素晴らしいプログラムでした。特に歴史的なことを学べたことは非常に価値がありました。
- ・ 特に原子炉見学が良かったです。グループプレゼンテーションでは、自分のコンフォートゾーンから一步踏み出すことができました。2 つ目のテーマは私にとって最も難しいものでしたが、同時に最もやりがいのあるものでした。このプログラムの運営に携わったすべての方々と、私たちを招待してくれた東京工業大学に感謝します。
- ・ 私にとって素晴らしい経験でした。日本の文化に触れることができ、東工大の学生や先生方がとても親切に私たちを助けてくれたことが本当にうれしかったです。HTTR と福島原子力発電所を見学できたことは一生に一度の経験であり、このプログラムのハイライトでした。
- ・ NICC2024 への参加は素晴らしい経験だったと思います！原子炉の歴史を再認識し、新しいタイプの原子炉に関する洞察に満ちた講義を聞き、試験研究炉が実際に開発されて使用されているのを見ることができました。プログラムのコーディネートも素晴らしく、この分野について他の若い専門家たちと話すことができよかったです。全体として、これは非常に洞察に満ちた経験であり、今後参加する人にも勧めたいと思いました。
- ・ 原子力とは何か、また原子力の日本社会における位置づけについて、視野を広げることができました。
- ・ 素晴らしい機会でした。

## 3.2. 原子カイノベーション留学

### 3.2.1. 米国大学原子力オープンキャンパス

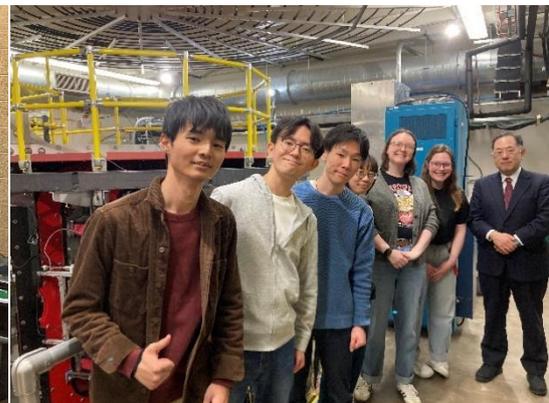
「原子カイノベーター養成プログラム」(Nuclear Innovator Cultivation Program: NICP) は、研究留学のモチベーションを高めることを目的に「米国大学原子力オープンキャンパス 2025 (USNOC2025)」を 2025 年 3 月 17 日から 23 日の日程で実施し、国内大学に在籍する大学院博士後期課程へ進学予定あるいは進学に興味を持つ修士課程学生 4 名が、プログラム代表小原徹教授の引率のもとウィスコンシン大学マディソン校原子核工学・物理工学科とミシガン大学原子核工学・放射線科学科を訪問した。参加学生は以下のとおりである。

氏名	大学名	コース・専攻	学年
國友 理紗	東京科学大学	環境・社会理工学院 融合理工学系 原子核工学コース	修士2年
嵯峨 稔己	京都大学	エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻	修士2年
額賀 駿	早稲田大学	先進理工学研究科 共同原子力専攻	修士1年
藤倉 洪治	東北大学	工学研究科 量子エネルギー工学専攻	修士2年

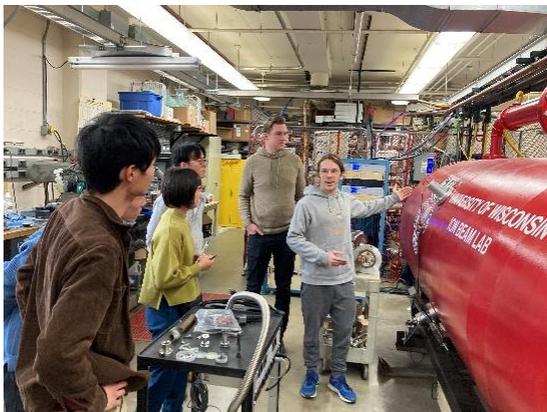
3月18日、一行はウィスコンシン大学マディソン校原子核工学・物理工学科を訪問した。最初にポール・ウィルソン教授・学科長による案内のもと大学の研究炉を見学したのち、トカマク実験施設 Pegasus-III、イオンビーム研究施設、ヘリカル実験施設HSXの3つの研究施設を見学して各研究室で研究に従事している大学院生との意見交換を行なった。続いて、参加学生はウィルソン教授による学科の概要説明を受けたのち、原子核工学・物理工学科の大学院生とのランチミーティングに参加して意見交換を行い、米国大学での研究生生活や日常の活動について具体的な情報を得ることができた。



研究炉見学



トカマク実験施設 Pegasus-III 見学



イオンビーム研究室見学と大学院生との意見交換



ヘリカル実験施設HSX見学と大学院生との意見交換



ウィルソン教授による学科概要説明



原子核工学・物理工学科の大学院生とのランチミーティング



ランチミーティング参加者とともに

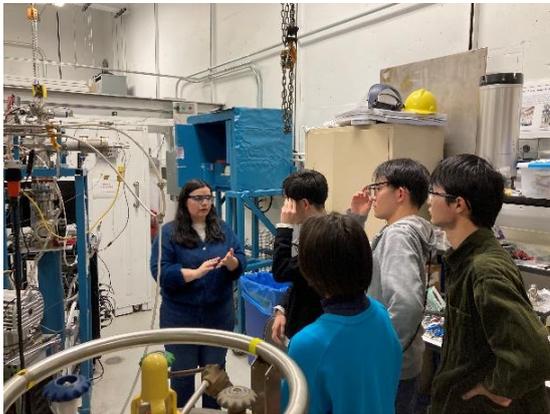
3月20日、一行はミシガン大学原子核工学・放射線科学科を訪問した。トッド・アレン教授・学科長による学科の概要の説明を受けて学科内を見学したのち、イオンビーム実験施設 MIBL、熱流動研究室、中性子科学研究室を訪問し、各研究室の研究施設を見学して研究に従事する大学院生や研究者と意見交換を行った。その後実施された学科の教授とのランチミーティング、午後から行われたイゴール・ヤノヴィッチ教授やウォン・ヤン教授との懇談を通じて、参加者は米国での研究活動について理解を深めた。



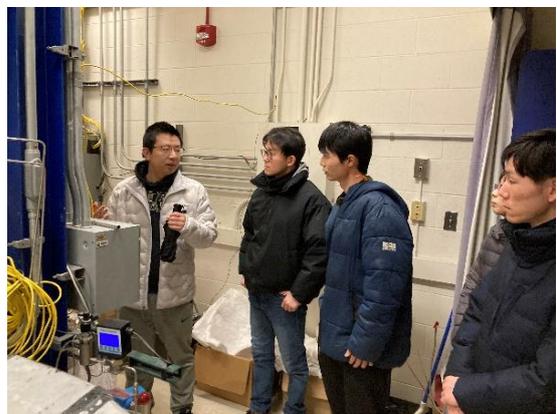
アレン教授・学科長による学科の概要説明



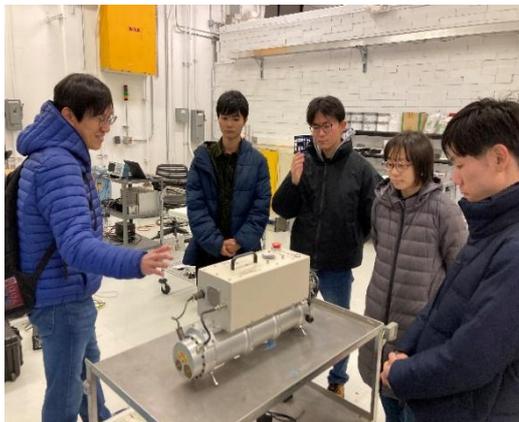
学科内の見学（学生による男女学生平等活動の象徴のトイレドア前にて）



イオンビーム実験施設 MIBL 見学と大学院生との意見交換



熱流動研究室の見学と大学院生との意見交換



中性子科学研究室の見学と研究者との意見交換



学科の教授とのランチミーティング



ヤノヴィッチ教授との研究活動についての懇談

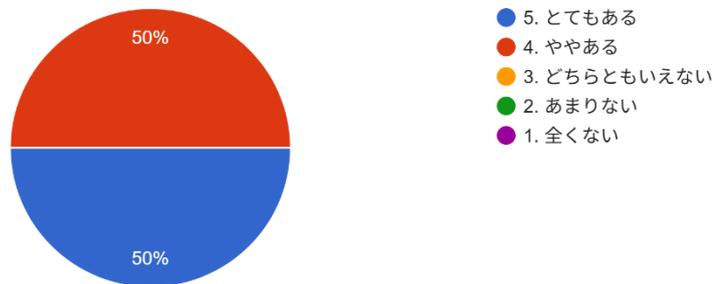
◆参加前後アンケート結果

参加前後のアンケートの結果から、本活動に参加した学生は米国大学での研究活動への関心を高めさらに具体的な研究活動のイメージができたとしており本活動の有効性が確認できた。

<参加前>

1. 米国の大学での研究留学に関心がありますか。

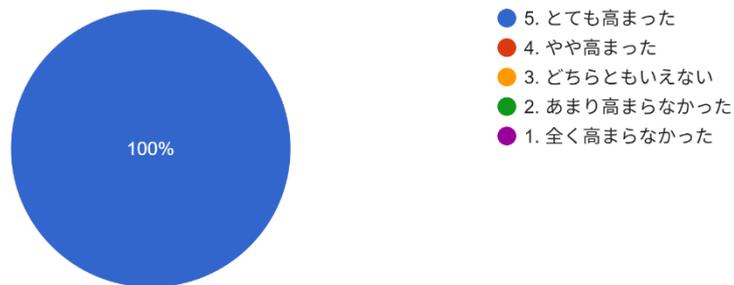
4件の回答



<参加後>

1. USNOC2025に参加して米国の大学での研究留学への関心が高まりましたか。

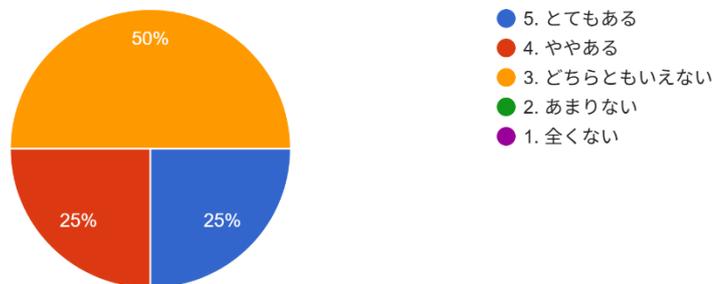
4件の回答



<参加前>

2. 米国の大学での研究留学でやってみたい研究は具体的にありますか。

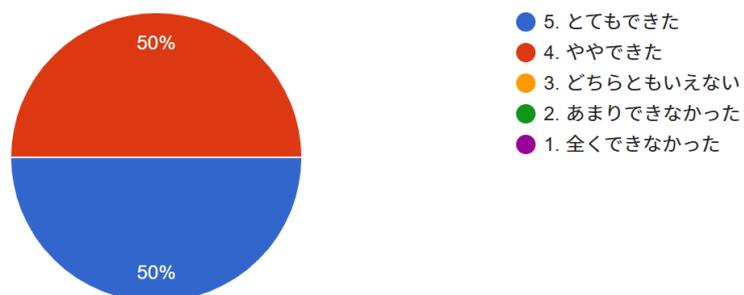
4件の回答



<参加後>

2. USNOC2025に参加して米国の大学での研究留学でやってみたい研究の具体的なイメージができましたか。

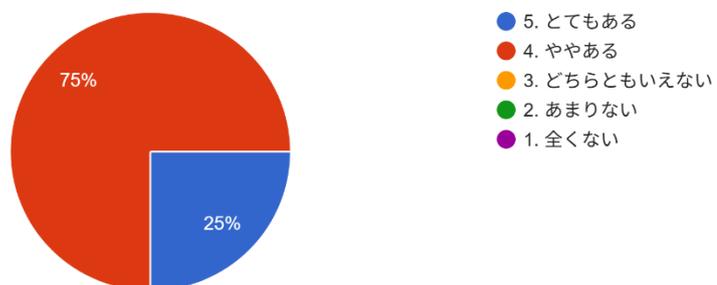
4件の回答



<参加前>

3. 米国の大学での研究留学で身につけたいものは具体的にありますか。

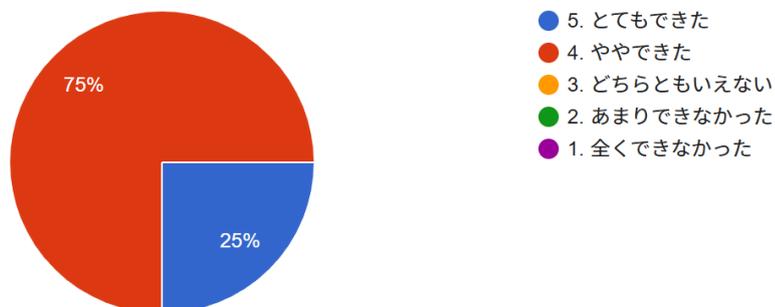
4件の回答



<参加後>

3. USNOC2025に参加して米国の大学での研究留学で身につけたいものは具体的にイメージできましたか。

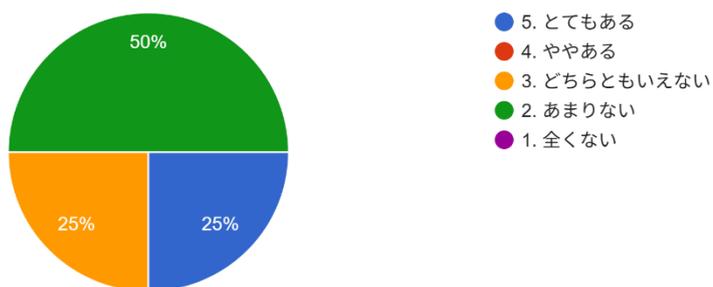
4件の回答



<参加前>

4. 米国の大学での研究室での活動について具体的なイメージはありますか。

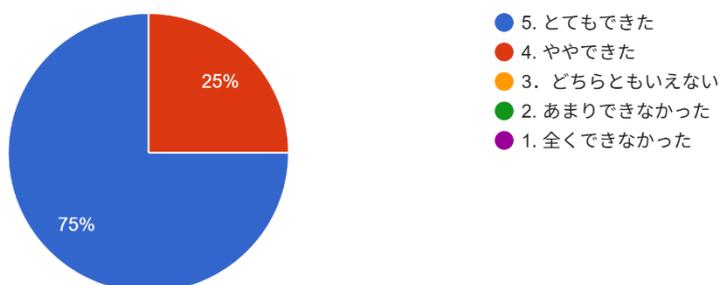
4件の回答



<参加後>

4. USNOC2025に参加して米国の大学での研究室の活動が具体的にイメージできましたか。

4件の回答



◆ 参加学生の声

- ・ 私は USNOC2025 に参加し、米国の大学での研究留学への関心が高まりました。特に米国で研究施設を見たり、大学院生や教授から研究内容を聞いたりすることで、研究のイメージが湧きました。

- ・ USNOC2025 を通して当初の目標であった、アメリカの大学で研究するとはどういうことかについて知ることができました。これまでアメリカに行ったことがなく、アメリカ留学についての印象がかなり漠然としていましたが、USNOC2025 によりこの印象をかなり具体的にすることができました。これにより、以前に増して実際に留学を行いたいと考えるようになりました。
- ・ 私は今までも留学に対する漠然とした憧れのようなものを抱き、いつかは挑戦したいと考えていました。しかし、同時に漠然とした不安を感じ、実際の計画には踏み出せていませんでした。今思うと、これは留学中の自分を明確に想像することができていなかったためです。実際に訪問し明確なビジョンが見えた今、留学が博士課程中・博士課程以降における有力な選択肢になりました。
- ・ 今回の経験では、自分の博士研究における米国留学の位置づけを見つめなおし、留学の奥的を深化させることができた。これを基にして、留学先の研究計画の策定を進め、自身の研究をさらに発展させるための準備を着実に進めていきたい。

### 3.2.2. 派遣による国際共同研究の成果

令和5年度（2023年度）原子カイノベーション留学 SANI2023によりテキサス A&M 大学へ派遣された藤原 悠さん（大阪大学大学院 工学研究科 環境エネルギー工学専攻 博士後期課程2年）が、2024年9月29日～10月4日にアラブ首長国連邦のアブダビで開催された国際学会 International Youth Nuclear Congress (IYNC) 2024に参加し、テキサス A&M 大学との共同研究の成果をポスター発表した。

発表題目：

Yu Fujiwara, Zavier Ndum, John Ford, “Investigation of the Influence of Medical Impacts on Radiation quality and Biological Effectiveness Using Microdosimetry”



### 3.3. 原子力オープンキャンパス

7月23日、原子力イノベーター養成プログラム（Nuclear Innovator Cultivation Program：NICP）は、令和6年度文科省主催原子力人材育成イベント「集まれ高校生！原子力オープンキャンパス」（以下、オープンキャンパス）を東京科学大学蔵前会館にて開催した。同イベントは「空想、科学、そして工学へ」をテーマに講演会・ポスターセッションと物理実験実習から構成されている。

参加者した高校生・高専生は173名（男子生徒65%、女子生徒32%、不明2%）で、参加した生徒の約1/3が女子生徒であった。学年別では、1年生32%、2年生57%、3年生12%であった。在籍している学校所在地では、東京・神奈川・千葉・埼玉の各都県からの参加が合わせて66%であり、それ以外の府県（山形、福島、茨城、栃木、群馬、新潟、富山、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、広島、徳島）から34%と、参加者に対する旅費等の支援はなかったにもかかわらず、遠方からも多くの参加者があった。

**集まれ高校生！ 令和6年度 文科科学省主催 原子力人材育成イベント**  
**原子力オープンキャンパス**  
**— 空想、科学、そして工学へ —**  
 高校生・高専生を対象とした空想と科学  
 そして最新テクノロジー開発をテーマにした  
 講演会・ポスターセッション・実験実習を  
 開催し参加者を募集。  
**参加費 無料**

**主催** 文科科学省 / 東京工業大学 / 未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム(ANEC)

**日時** 2024年7月23日(火)  
 09:00~11:30 物理実験実習  
 13:00~16:30 講演・ポスターセッション

**対象** 全国の高校生・高専生

**定員** 300名(先着順) ※実験実習の定員は15名(先着順)

**会場** 東京工業大学 蔵前会館 東京都目黒区大岡山2-12-1  
 大岡山駅(東急大井町線・目黒線)徒歩1分

**申込締切** 2024年7月15日(月)  
 ※実験実習にも参加希望の場合は 2024年7月8日(月)

**講演者**  
**ヒーローたちのエネルギー**  
 柳田 理科雄 氏  
 作家・明治大学兼任講師・空想科学読本シリーズ著者  
 1996年「空想科学読本」を上梓。マンガやアニメ、特撮やゲームなどの世界を科学的に研究する試みを行っている。

**フュージョン【地上の太陽】×スタートアップ起業で世界を救おう！**  
 武田 秀太郎 氏  
 京都フュージョニアリング社 共同創業者 兼 Chief Strategist.  
 「フュージョンを産業化」を目指し、同社を100名超のグローバル企業に成長。九州大学准教授。

お問い合わせ先 東京工業大学 原子力イノベーター養成プログラム事務局 E-mail: nicp@pc.ir.titech.ac.jp

**プログラム**

**物理実験実習**

09:00	集合・オリエンテーション (東京工業大学 蔵前会館)
09:30	粒子加速器による原子核反応の実験 (東京工業大学 ゼロカーボンエネルギー研究所)
11:30	実習終了

**講演・ポスターセッション**

12:30	開場
13:00	開会挨拶 東京工業大学原子力イノベーター養成プログラム NICP 代表 小原 徹 (東京工業大学)
13:05	文科科学省挨拶 文科科学省研究開発局原子力課長 奥 寛史
13:10~14:00	講演 「ヒーローたちのエネルギー」 柳田 理科雄 (空想科学読本)
14:00~15:30	ポスターセッション 各大学原子力教育学科・専攻、研究機関、企業によるポスター展示と説明者との対話
15:30~16:20	講演 「フュージョン【地上の太陽】×スタートアップ起業で世界を救おう!」 武田 秀太郎 (九州大学・京都フュージョニアリング)
16:20	閉会挨拶 未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム ANEC プログラム・ディレクター 山本 繁夫 (名古屋大学)

**会場**  
**東京工業大学 蔵前会館**  
 東京都目黒区大岡山2丁目12-1  
 大岡山駅(東急大井町線・目黒線)徒歩1分

**ポスターセッション参加大学・企業・機関 (予定・順不同)**  
 北海道大学・東北大学・東京大学・東京工業大学・美濃国府科学大学・徳島大学・福井工業大学・大宮大学・名古屋大学・京都大学・九州大学・東京理科大学・早稲田大学・近畿大学・日立G&E・ユークリア・エナジー(株)・東京エネルギーシステムズ(株)・三菱重工業(株)・三菱電機(株)・(株)IHI・日産グローバル(株)・国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

◆ 講演会・ポスターセッション

小原徹・NICP代表による開会挨拶、有林浩二・文科科学省研究開発局原子力課長による挨拶に続いて、空想科学読本シリーズの著者である柳田理科雄氏が、「ヒーローたちのエネルギー」と題して講演を行なった。柳田氏は、ホワイトボードを使ってアニメやマンガのヒーローたちの謎や不思議を科学的にわかりやすく解説し、参加者の科学への興味を駆り立てた。



開会挨拶を行う小原徹 NICIP 代表



挨拶を行う有林浩二原子力課長



講演中の柳田理科雄氏 1

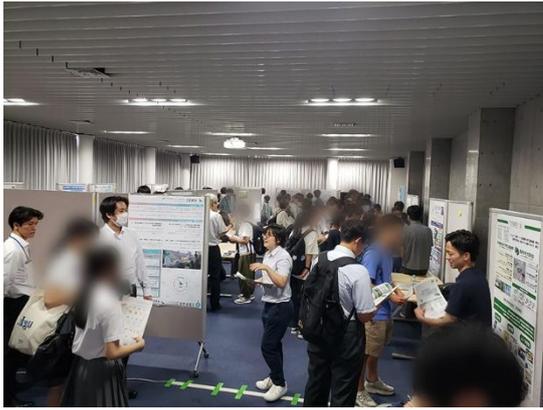


講演中の柳田理科雄氏 2

続くポスターセッションは 1 時間半にわたって行われ、原子系学科・専攻を持つ 14 大学、原子力関連の事業を行う 8 企業・研究機関、未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム (ANEC) が出展した。高校生・高専生たちは 2 会場にわかれた出展ブースを自由に見学し、出展者との質疑応答を通じて、大学や企業における最先端の原子力研究開発について理解を深めた。

<出展大学・企業・機関（順不同）>

北海道大学・東北大学・東京大学・東京科学大学・長岡技術科学大学・福井大学・福井工業大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学・東京都市大学・早稲田大学・近畿大学・国立研究開発法人日本原子力研究開発機構・東京電力ホールディングス（株）・（株）IHI・東芝エネルギーシステムズ（株）・日揮グローバル（株）・日立 GE ニュークリア・エナジー（株）・三菱重工業（株）・三菱電機（株）



大学ポスターセッションの様子 1



大学ポスターセッションの様子 2



大学ポスターセッションの様子 3



企業ポスターセッションの様子 1



企業ポスターセッションの様子 2



企業ポスターセッションの様子 3

後半の講演会では、京都フュージョニアリング社共同創業者兼 Chief Strategist ・九州大学准教授の武田秀太郎氏を迎え、「フュージョン[地上の太陽]×スタートアップ起業で世界を救う!？」と題した講演を行った。武田先生は、数々の人道支援運動に取り組んできた功績から存命する日本国籍で唯一のマルタ騎士に叙任されている。エネルギー問題の解決を通じて世界平和を目指すという理念のもと、小型核融合炉の開発に取り組む武田先生の講演は参加した高校生・高専生に大きな刺激を与えた。最後に、山本章夫・国際原子力人材育成イニシアティブ事業プログラム・ディレクターが閉会挨拶を行った。



講演中の武田秀太郎氏 1



講演中の武田秀太郎氏 2



閉会挨拶を行う山本章夫プログラム・ディレクター



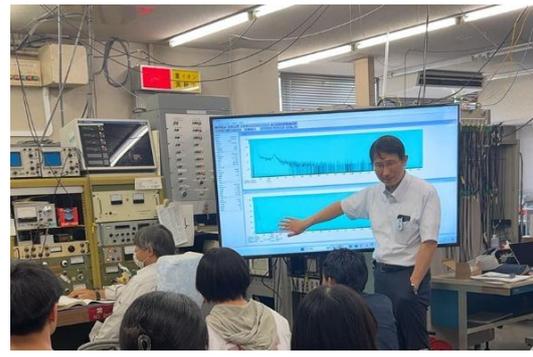
講演会場の様子

#### ◆ 物理実験実習

7月23日および翌24日、オープンキャンパス参加者を対象に、放射線を使った物理基礎実験実習を東京科学大学ゼロカーボンエネルギー研究所のペレトロン加速器を使用して行った。実習は、同研究所の片渕竜也准教授の指導のもと3回にわたって行われ、各回11～13人、合計37人が参加した。参加者は、事前に配布されたテキストにて原子と原子核反応についての基礎知識について予習したうえで実習に臨んだ。実験実習では、粒子加速器を用いて中性子が引き起こす原子核反応を観測することで、中性子の性質や中性子と物質との相互作用や原子核反応について学んだ。



粒子加速器の説明を行う片渕准教授



実験の解説を行う片渕准教授

◆ 参加者へのアンケート結果

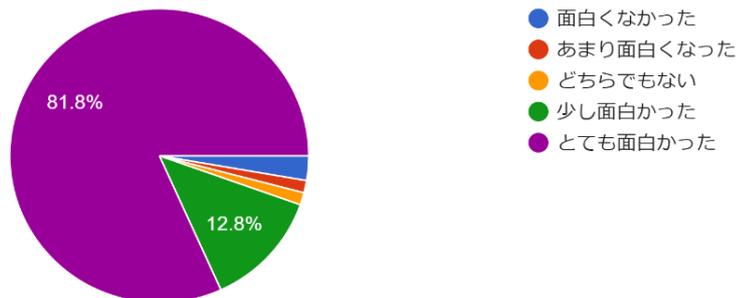
参加者に対しては開催後アンケートを実施した。その結果を以下に示す。大学・研究機関・原子力関連企業の紹介を行ったポスターセッションについては「とてもよかった」「すこしよかった」とする回答が 9 割以上と高い結果となった。また、原子力分野へ勉強や研究、仕事への関心が増したかという質問に対してはいずれも「とても増した」「少し増した」という回答が 9 割以上となり本活動が非常に意義のある活動であったことを示す結果となった。

<アンケート結果（企画の面白さ）>

回答数：148（参加者 173 名、回答率 85.5%）

1. 講演「ヒーローたちのエネルギー」は面白かったですか。

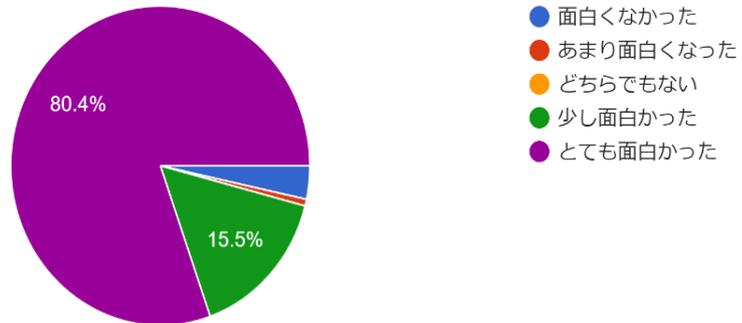
148 件の回答



2.

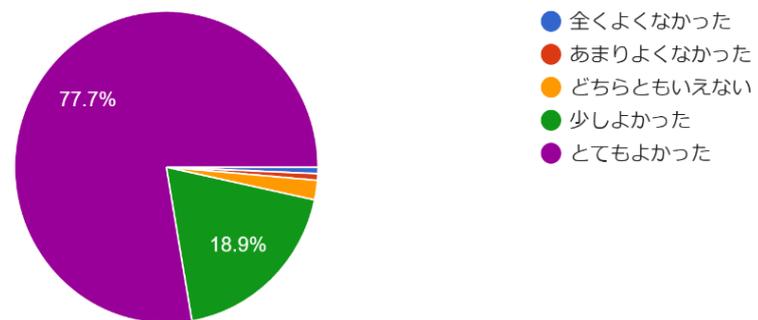
講演「フュージョン[地上の太陽]×スタートアップ起業で世界を救う!？」は面白かったですか。

148 件の回答



3. ポスターセッションはよかったですか。

148 件の回答

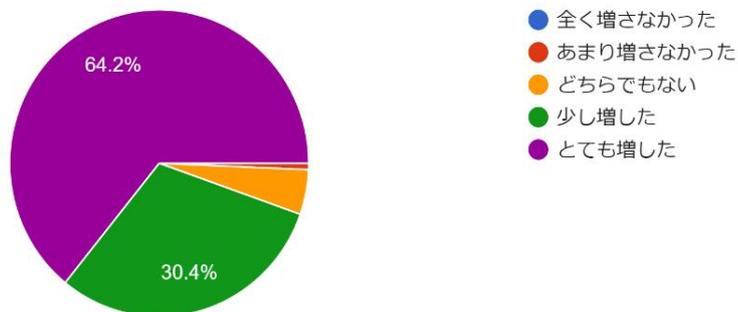


<アンケート結果（原子力への関心）>

回答数：148（参加者 173 名、回答率 85.5%）

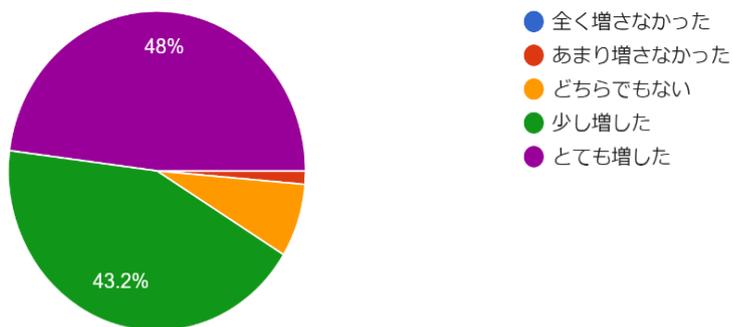
6. 参加して原子力への関心が増しましたか。

148 件の回答



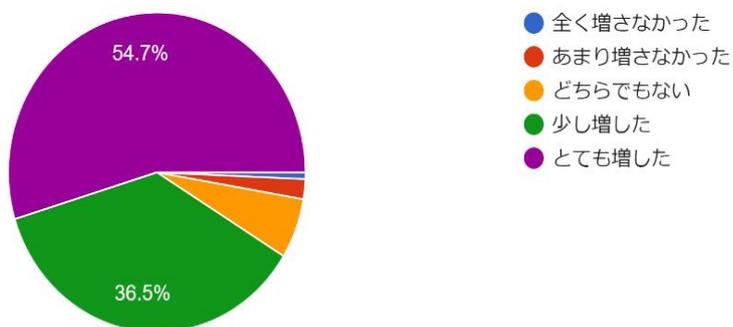
7. 参加して大学での原子力の勉強や研究に関心が増しましたか。

148 件の回答



8. 原子力分野の仕事の関心が増しましたか。

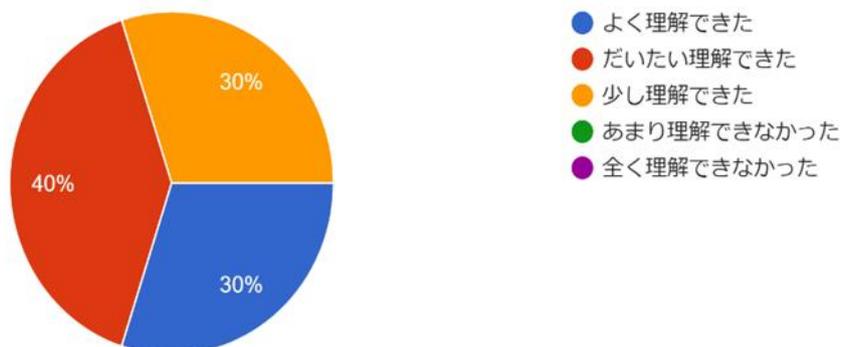
148 件の回答



<アンケート結果（ペレトロン加速器による物理実験実習）>  
回答数：20（参加者 37 名、回答率 54.1%）

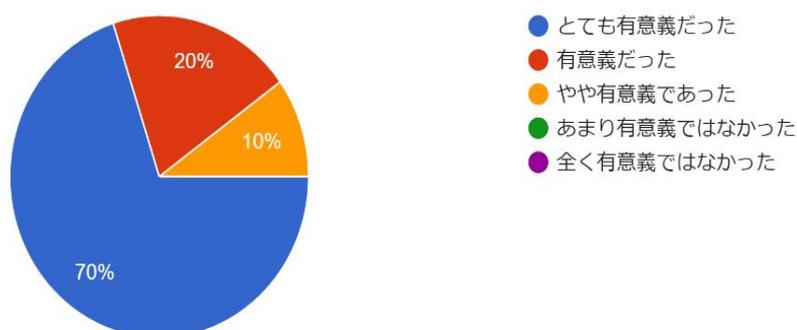
## 2. 実習内容は理解できましたか。

20 件の回答



## 3. 実習はあなたにとって有意義でしたか。

20 件の回答



### ◆ 参加者の声

講演会・ポスターセッション・物理実験実習ともに参加した高校生・高専生から大変有意義だったという声が多数寄せられた。

#### <講演・ポスターセッション>

- 私は理工系に興味があつて原子力に特別に興味があつたわけではなかったのですが、今回のご講演やポスターセッションを通して原子力だけでなく色々な分野に興味をもてました！
- 原子力は危なく危険とばかり思っていたがその認識が覆されました。また、安全に使えば私たちの生活をよりよくするための大きな力を秘めたエネルギーなのだとかわかりました。貴重なお話をありがとうございました。

- 原子力に関する企業の取り組みや大学の研究などについて詳しく知ることができて、改めて原子力について興味を持ちました。また、核融合についても深く理解を深めることができたので、自分で詳しく調べてみたいです。

#### <物理実験実習>

- 専門的で複雑な内容で、テキストを読んだだけでは難しく理解できない点もあったのですが、当日の説明を受けて大半を理解できたので、とても有意義で楽しい時間でした。
- 中性子やガンマ線の状態をグラフでリアルタイムに見ることができ、より一層原子への関心が高まった。
- 普段見れない機械を近くで見せて頂けてとても貴重な体験ができました。内容は高一の私には難しかったですが有意義な時間を過ごせたとおもいます。

### 3.4. その他

米国出張報告 [2024年11月28日-11月28日]

プログラム代表 小原教授とプログラム担当教員 片渕准教授は、2024年11月18日-28日、米国出張を行った。訪問先は、「原子力イノベーター養成プログラム」(Nuclear Innovator Cultivation Program: NICP) に参画している、以下の米国6大学である。

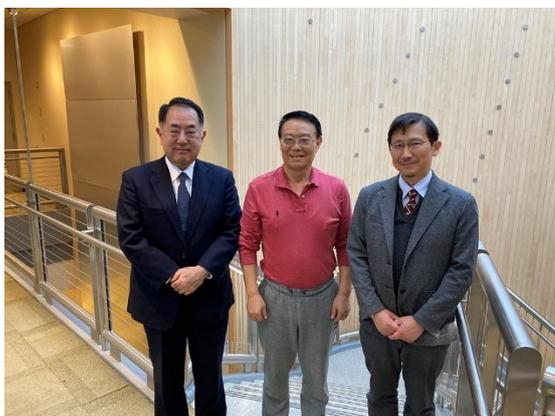
- ミシガン大学原子核工学・放射線科学科
  - ◇ フェイ・ガオ教授 (2022年度 SANI 学生の受入教員)
  - ◇ トッド・アレン教授 (学科長)
- ウィスコンシン大学マディソン校原子核工学・物理工学科
  - ◇ ポール・ウィルソン教授 (学科長)
  - ◇ エイドリアン・クエット教授 (大学院研究担当副学科長、Nuclear Innovation Alliance メンバー)
- ノースカロライナ州立大学原子核工学科
  - ◇ ジェイコブ・イーパン教授 (NICP の窓口教員)
  - ◇ マサチューセッツ工科大学 (MIT) 原子核科学工学科
  - ◇ ヤコボ・ボンジョルノ教授 (先進原子力研究センター長)
- テキサス A&M 大学原子核工学科
  - ◇ カレン・カーランド教授 (副学科長)
  - ◇ マンスン・イム教授 (原子セキュリティ科学・政策イニシアティブセンター (NSSPI) ディレクター)

- カリフォルニア大学バークレー校原子核工学科
  - ◇ ジャスミーナ・ヴジック教授（原子科学・セキュリティーコンソーシアム（NSSC）プログラム・ディレクター）

これらの大学は「原子カイノベーション留学」（Studying Abroad for Nuclear Innovation: SANI）で派遣する日本人学生の受け入れに協力しているとともに、毎年開催している「原子カイノベーター養成キャンプ」（Nuclear Innovator Cultivation Camp: NICC）へ所属学生を派遣している。

小原教授と片渕准教授は、各大学にNICPの活動実績と今後の計画を説明し、引き続きの協力を依頼した。また、日米の原子力人材育成活動について様々な意見交換を行った。いずれの大学もNICPの活動を高く評価し、今後もNICP活動に協力していくことを表明した。

#### ミシガン大学



ガオ教授（中央）と小原教授・片渕准教授

#### ウィスコンシン大学マディソン校



ウィルソン教授（中央）と小原教授・片渕准教授

#### ウィスコンシン大学マディソン校



クエット教授（中央）と小原教授・片渕准教授

#### ノースカロライナ州立大学



イーバン教授（中央）と小原教授・片渕准教授

#### マサチューセッツ工科大学 (MIT)



ボンジョルノ教授（中央）と小原教授・片渕准教授

#### テキサス A&M 大学



（左から）カークランド教授、片渕准教授、イム教授

#### カリフォルニア大学バークレー校



ヴジック教授（右）と片渕准教授

#### 4. 結言

この事業では、原子力工学の基礎に立脚し、エネルギーシステムと様々な工学分野の先端技術に通じ、原子力分野で新たな企業活動を立ち上げる意欲と能力を持ち、国際的センスとマネジメントに優れ将来の原子力エネルギー分野でのイノベーションを担うことのできる技術者・研究者の育成を目的として原子力イノベーター養成キャンプ（NICC）を開催した。令和 6 年度は、原子力イノベーション留学（SANI）の活動として米国大学原子力オープンキャンパス（USNOC2025）を実施し、海外大学での研究留学のモチベーションの高い学生の育成を行い、さらに関連する活動を行った。また、原子力オープンキャンパスを開催し、高等学校生徒の原子力への関心を高める活動を行った。それぞれ充実した活動が行われ有意義な成果が得られた。令和 7 年度は、引き続き原子力イノベーター養成キャンプ（NICC）を開催するとともに、原子力イノベーション留学（SANI）を実施する。

## 付録

### 1. 令和6年度原子カイノベーション留学 追加募集要項



東京工業大学 国際原子力人材イニシアティブ事業

原子カイノベーター養成プログラム

Tokyo Tech Nuclear Innovator Cultivation Program



東京工業大学  
Tokyo Institute of Technology

令和6年4月5日

## 令和6年度 原子カイノベーション留学 (Studying Abroad for Nuclear Innovation: SANI2024) 追加募集要項

東京工業大学 原子カイノベーター養成プログラム

代表 小原 徹

文部科学省補助事業「国際原子力人材育成イニシアティブ」の活動として、東京工業大学では「[原子カイノベーター養成プログラム](#)」(Nuclear Innovator Cultivation Program: NICP)を運営しており、このNICPの活動の一環として、「[原子カイノベーション留学](#)」(Studying Abroad for Nuclear Innovation: SANI)2024を実施いたします。

SANI2024では、将来、原子力分野でのイノベーションを目指す大学院生の研究を支援するため、博士課程学生を米国大学の原子力系学科へ研究留学派遣の追加募集を行います。

### 応募資格：

国内の大学に在籍し、原子力分野の研究に取り組んでいる博士課程学生(社会人博士課程学生を除く)。本プログラムでは、日本学生支援機構の派遣条件に準じ、派遣学生は日本国籍を有する学生等又は日本への永住を許可されていることとします。

なお、できるだけ多くの学生に研究留学の機会を与えるという趣旨から、派遣は、自国以外の大学での長期研究留学経験のない学生を優先します。

### 研究テーマ：

原子力分野における将来のイノベーションのための研究とします。派遣後に国際共著論文、国際会議・国内会議での国際共同発表、および今後の共同研究への発展が期待できる研究テーマとします。

### 派遣内容：

[SANI2024 派遣学生の受入れを表明している研究室](#)での研究留学。期間は令和6(2024)年11月から4ヵ月間程度。派遣大学および受入研究室は、SANI選考委員会で応募者の審査を行ったのち、NICP事務局が提携大学窓口教員を通じて受入研究室と調整を行い、受入研究室の意向によって決定されます。

なお受入研究室の決定にあたり、受入研究室教員とのオンラインでの面接を実施する場合があります。

### 派遣先：

マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学バークレー校、ノースカロライナ州立大学、ミシガン大学、ウィスコンシン大学マディソン校、テキサス A&M 大学の原子力系学科で [SANI2024 派遣学生の受入れを表明している研究室](#)

### 追加募集人数：

若干名

### 派遣支援内容：

所属キャンパスから出発空港までの往復交通費、留学先までの往復エコノミークラス航空券、現地での滞在費用 400,000 円/月（ただし滞在期間は 3 ヶ月間以上 4 ヶ月間以下。滞在月数に端数がある場合は 14 日以下支給なし。15 日以上 1 ヶ月間分支給）

### 応募手順と審査・採択：

1. SANI 受入研究室リストや提携大学の HP を見て、受入希望研究室を検討してください。
2. 「追加募集要項」に従って、期日までにお願いします。  
\*別途、[指導教員推薦書（様式 1）](#) を在籍大学指導教員へ依頼し、指導教員から直接 NICP 事務局 < nicp@zc.iir.titech.ac.jp > へメールで送付していただくこと。
3. 応募者に対し SANI 選考委員会による書類審査および英語面接を実施します。
4. 英語面接はオンラインで行います。約 10 分間で簡単な自己紹介と留学の意義や計画について説明してください。その後、約 10 分間程度関連する事項についての質問等に答えていただきます。
5. 審査結果上位学生の受入れ可否を NICP 事務局が提携大学窓口教員を通じて受入研究室へ打診します。この際、受入研究室教員による応募学生のオンライン面接を実施する場合があります。第 2 希望までの研究室とのマッチングが成立した場合、派遣が決定されます。
6. 採択の可否は、応募者本人および在籍大学指導教員宛に通知します。
7. 決定した派遣先は変更することはできません。

### 応募締切：

令和 6（2024）年 5 月 24 日（金）正午

### 派遣スケジュール：

- 応募受付締切： 令和 6（2024）年 5 月 24 日（金）正午
- 選考面接（Zoom）： 令和 6（2024）年 5 月 31 日（金）13:30 - 15:30
  - ※ 1 人約 20 分を予定
  - ※ 面接日時の指定や変更はできません。ご了承ください。

- **仮決定通知：** 令和6（2024）年6月7日（金）  
※ 選考結果に関する問い合わせには回答できません。ご了承ください。
- **派遣準備：** 令和6（2024）年6月 - 10月
  - ・ 在籍・受入大学での留学手続き、ビザ取得、宿舎確保、受入教員との研究詳細すり合わせ…  
派遣学生が自ら行うこと
  - ・ 航空券手配・渡航費用支給…NICP事務局が対応
- **留学派遣：** 令和6（2024）年11月 - 令和7（2025）年2月
- **成果発表会（Zoom）：** 令和7（2025）年3月を予定

#### **オンライン募集説明会：**

令和6（2024）年1月30日に**オンライン募集説明会**を開催し、当日の投影資料と動画を下記ページにて公開しておりますので、ご覧ください。

<https://nicp.ne.titech.ac.jp/jp/sani/index.html#a240201>

#### **米国で研究留学をした後の米国での就労について：**

米国大学での研究留学にあたっては米国 J1 ビザを取得することになりますが、J1 ビザで留学した後、2年以内に米国でポスドク等の職に就くために就労ビザを取得する場合は別途米国政府の帰国義務免除の許可をとる必要がある場合があります。詳しくは事務局へお問い合わせください。

#### **問い合わせ先・各種申し込み／送付先：**

東京工業大学 原子カイノペーター養成プログラム事務局

- 応募申請サイト：<https://forms.gle/4pF77R2i4goPEsJg7>
- 問い合わせ先／派遣推薦書送付先：[nicp@zc.iir.titech.ac.jp](mailto:nicp@zc.iir.titech.ac.jp)
- プログラムサイト：<https://nicp.ne.titech.ac.jp/jp/index.html>

## 2. 米国大学原子力オープンキャンパス 2025 募集要項



Science Tokyo 国際原子力人材イニシアティブ事業  
原子力イノベーター養成プログラム  
Science Tokyo Nuclear Innovator Cultivation Program



令和6年12月20日

### 「米国大学原子力オープンキャンパス 2025 (USNOC2025)」募集要項

Science Tokyo 原子力イノベーター養成プログラム

代表 小原 徹

文部科学省補助事業「国際原子力人材育成イニシアティブ」の活動として、東京科学大学では「[原子力イノベーター養成プログラム](#)」(Nuclear Innovator Cultivation Program: NICP)を運営しています。NICPの活動の一つである「[原子力イノベーション留学](#)」(Studying Abroad for Nuclear Innovation: SANI)では、将来の原子力分野でのイノベーションを目指す大学院生の研究を支援するため、博士後期課程学生の米国大学の原子力系学科への研究留学派遣を行っています。

本年度はSANIの活動として「米国大学原子力オープンキャンパス 2025 (USNOC2025)」を実施します。このオープンキャンパスでは、研究留学のモチベーションを高めるために、2つの米国大学の研究室を訪問し研究内容の説明を受け、研究施設の見学、研究者との質疑等を行います。

#### 応募資格：

国内大学に在籍する大学院博士後期課程へ進学予定あるいは進学に興味を持つ修士課程学生（社会人学生を除く）。

本プログラムでは、日本学生支援機構の派遣条件に準じ、派遣学生は日本国籍を有する学生等又は日本への永住を許可されていることとします。

#### 派遣先：

[ウィスコンシン大学マディソン校 原子核工学・物理工学科](#)

[ミシガン大学 原子核工学・放射線科学科](#)

#### 派遣スケジュール：

令和7年

3月17日(月)	日本出発・米国着
3月18日(火)	ウィスコンシン大学マディソン校訪問
3月19日(水)	移動
3月20日(木)	ミシガン大学訪問
3月21日(金)	米国出発・日本着(3月22日(土))

備考：プログラム担当教員が現地に対応します。

### 派遣予定人数：

---

6名程度

### 派遣支援内容：

---

所属キャンパスから出発空港までの往復国内交通費、米国までの往復エコノミークラス航空券および米国内交通費、宿泊費（2名1室を予定）、ESTA申請費、海外旅行保険費を東京科学大学の旅費規定に従い支給。

航空券手配および宿泊費等支給はNICP事務局が対応します。

### 応募手順と審査・採択：

---

1. [応募フォーム](#)から応募締切期日までに出席してください。
2. 別途、[指導教員推薦書（様式1）](#)を在籍大学指導教員へ依頼し、指導教員から直接NICP事務局 < nicp@zc.iir.isct.ac.jp >へメールで送付していただいでください。
3. 応募者に対し書類審査および面接（Zoom）を実施します。
4. 採択の可否は、応募者本人および在籍大学指導教員宛に通知します。選考結果に関する問い合わせには回答できません。ご了承ください。
5. 採択者には、派遣オリエンテーションとSANI派遣学生との意見交換会に出席していただきます。また、参加前後のアンケートと参加後のレポートを提出していただきます。

### 応募・派遣スケジュール：

---

令和7（2025）年

- 応募締切： 1月24日（金）正午
- 書類選考結果通知： 1月27日（月）
- 面接選考（Zoom）： 1月29日（水）17:30～19:00
- 決定通知： 1月31日（金）
- 派遣オリエンテーション： 2月3日（月）17:30～18:30
- SANI派遣学生との意見交換会： 未定（2～3月に開催予定）
- 派遣手続き： 2月3日（月）～ 3月14日（金）
- USNOC2025参加： 3月17日（月）～ 3月22日（土）
- 参加後レポート提出締切： 3月26日（水）

**問い合わせ先・各種申し込み／送付先：**

---

Science Tokyo 原子カイノペーター養成プログラム事務局

- 応募フォーム：<https://forms.gle/ZVvn5NWoi9YLcqjA8>
- 問い合わせ先／派遣推薦書送付先：[nicp@zc.iir.isct.ac.jp](mailto:nicp@zc.iir.isct.ac.jp)
- プログラムサイト：<https://nicp.ne.titech.ac.jp/jp/index.html>